

「神を説き明かすため」ヨハネ1章14-18節

ヨハネはこの福音書の冒頭でキリストのことを「ことば」として表現し、この「ことば」は初めから神と共におられた方であり、この世界のすべてのものを造られた神であると語っております。さて今朝開かれております14節を見ますとこの神であられる「ことば」は人となって私たちの間に住まわれたのだと語っています。これがいわゆる2000年前のクリスマスの出来事であります。それでは何故「ことば」である神がわざわざ人となってこの世に生れて来る必要があったのでしょうか？今日は神が人となられたその目的について二つの点から学んでみたいと思います。

まず第一の、神が人となられた目的ですが、それは17節に記されてありますように、イエス・キリストを通して「神の恵みとまこと」を実現させるためでありました。

恵みというのは私たちが努力して勝ち得るものではなく神さまから一方的に与えられる特別な祝福であります。また「まこと」とは神の契約に対する神の真実さ、誠実さを表わしています。神さまは旧約の時代、イスラエルとの間に契約を結び、更新してこられました。そして長い間、約束されていたその神の契約がイエス・キリストによってついに実現したのでした。それをヨハネは「恵みとまこと」が実現したのでであると語っているのです。その契約とは12節で語られているように「イエス・キリストを受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には神の子どもとされる特権が与えられる。」というものです。私たち人間は神に対して罪を犯して以来、神との交わりが断絶し、神の子としての権利を失ってしまったからです。しかしその神の子としての権利がもう一度イエス・キリストを信じる信仰によって私たち人類に回復されたのです。誰でもイエス・キリストを信じる者は、その信仰のゆえに罪が赦され、清められ、神の子どもとして受け入れて下さる、これが神がイエス・キリストによって私たちに与えて下さった新しい契約なのです。そしてこの新しい契約はイエス・キリストを受け入れる者、その御名を信じる人々にすべて例外なく与えられるのです。

さてそれでは次に、神さまが人となられたもう一つの目的について見てみたいと思います。それは18節にありますように「神を説き明かす」ためでありました。

14節でヨハネはクリスマスを「ことば」である神が人となって私たちの間に住まわれた出来事であると語っています。天地万物の創造主なる神、全知全能の神、この栄光の神が人となられたのです。ヨハネはこの方の栄光を見たと言います。これは人類の歴史始まって以来前代未聞の出来事でありました。しかし「誰も神を見ることができない、神を見た者は死ぬ」と教えられてきたユダヤ人にして見れば、この神の受肉は到底信じることも受け入れることができない出来事でありました。しかしそのユダヤ人である彼ら弟子たちは誰しもがああ2000年前にマリヤを通してこの世に生まれてきたあのイエス・キリストはまぎれもなく「人となられた神」と告白しているのです。では何故わざわざ神が人となられたのかと言いますと、それは私たち人類が信ずべき「まことの神」とはどのような神なのかを人々に説き明かすためであったと言うのです。それでは何故神を説き明かす必要があったのでしょうか。それは私たち人類がまことの神を信じるためでありました。神さまはご自身についてその本質を私たちに知らせるために、歴史の中で次の三つの方法をもって啓示されたのでした。

まず第一に、神さまはご自身が創造されたこの世界の被造物を通してご自身の神の本質を啓示されたのでした。それゆえパウロは「神の永遠の力と神性は神が創造された被造物を通して知ることができ、弁解の余地はない。」（ローマ1:20）と言います。宇宙の天体の動き、地球の自転や公転、自然界の神秘、人間を初めとする生物の不思議、どれ一つとってみても本当によく出来ていますね。こんなにも精巧な存在が偶然に出来るわけがないのです。ですか

ら私たちは神が造られた被造物を注意深く観察することによって、それらのものを造られた創造主なる神がおられることがわかると言うのです。しかしそれだけではありません。

次に第二に、神さまは旧約聖書を通して、まことの神とはいかなる神なのかを人類に啓示されました。神はモーセや様々な預言者を通してこの世界を造られたまことの神がおられるということを人類に語り続けてきました。そしてその神がどのような神であり、どのような御心を持っているのかを人間に旧約聖書を通して示して来られたのです。ですから私たちは旧約聖書を読むことによって、天地万物を造られた神さまがどのようなお方であるか、その性質についてもっと詳しく知ることができるのです。しかしそれだけではありません。

神さまは何と「時満ちた時代」に、旧約聖書の約束どおり、永遠の昔から神の御側におられたひとり子の神をこの世に遣わされたのです。それはイエス・キリストを通して、神ご自身をさらに詳しく説き明かすためでした。これが第三番目の方法であります。

この「神を説き明かす」ということは、その神さまと一緒に住み、その神さまのことをよく知っている人でなければ決してできることではありません。ですからこれは神を見たことのない人間には到底できないことなのです。いやたとえ御使いであってもできないことなのです。それは永遠の初めから父なる神と共におられた子なる神だからこそできることなのです。いや、神を説き明かすなんてことは父なる神のことをよく知っている子なる神にしかできないことなのです。それではイエス・キリストは、この世に人として来られることによって、神さまのどのような本質を私たちに説き明かされたのでしょうか。

まず第一に、イエス・キリストがさらに詳しく説き明かされたことは、聖書の神さまが父なる神と子なる神と聖霊なる神の三位一体の神であるということではないでしょうか。

イエス・キリストがこの世に来られることによって、ご自分が父なる神と共に永遠の初めからおられた子なる神であると説き明かされたのです。それゆえイエスは、ヨハネの福音書17章5節では「父よ、今、あなたご自身が御前でわたしの栄光を現わして下さい。世界が始まる前に一緒に持っていたあの栄光を。」と語っているのです。しかしそれだけではありません。ヨハネの福音書14章16節では「わたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え下さり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにして下さいます。この方は真理の御霊です。」と御霊なる神についても語っています。ここに父なる神と子なる神と聖霊なる神の美しい三位一体の神の姿が語られているのです。

次に第二に、イエス・キリストは神について、神がいかに人間を愛された愛の神であるかを説き明かしているのです。

私たちは自分の愛を相手に伝えるためにはどのようにしていますか。まずは「私はあなたのことを愛している」とはっきりと言葉で表現することが必要です。しかしそれだけでは不十分です。その人のことを愛しているということを伝える手段として最もよく用いられるのがプレゼントではないでしょうか。神さまはその愛を人類に対して表わすために最高のプレゼントを私たちに与えて下さったのでした。それがクリスマスに与えられたイエス・キリストでありました。神さまはイエス・キリストを通して、神さまがどんなに私たち一人一人を愛しておられるか、どんなに大きな赦しに富んでおられる神であるかを具体的にお示しになられたのであります。そしてその最も大きな愛の表れがあイエス・キリストの十字架の犠牲の死であったのです。そこにはこの人間を救うためならばその愛するひとり子でさえ犠牲にしても良しとされる父なる神の愛があります。またこの人間を救うためならば自分が愛する父なる神から捨てられても良しとする子なる神キリストの愛があります。ですから、神が人となられたということの中に、私たち人間に対する父なる神と子なる神の深い愛を見るのであります。この待降節、この父なる神と子なる神の愛を私たち一人一人がしっかりと受けとめ、この神の愛をまだ知らない方々に証しする者とさせて頂きたいものです。